

講義名	専門基礎演習（人）			授業形態	
担当教員	関 梅	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

本科目は、2年後期の「研究演習」、3年の「研究演習」、4年の「卒業研究」といった科目名にあらわされる、いわゆる「ゼミナール（ゼミ）」につなぐ重要な位置づけを担っている。大学のゼミでの受講や研究を円滑に進めるためには、知的リテラシーと知的コミュニケーション力から成る「アカデミック・スキル」（具体的には「聞く・調べる・読む・書く」に関する能力・「説明・議論・討議等」に関する能力）が必須的に求められることから、本科目により「アカデミック・スキルの土台」を強化しておく必要がある。尚、本科目で得ることのできるアカデミック・スキルは、大学在学中だけの話ではなく、大学を卒業して社会に出からも十分に役立つものである。

そのために、1年次の自己発見とキャリア開発科目や基礎能力科目での学修内容を基本に、大学生としてより高度なレベルでの能力育成をおこなう。進め方の基本は指定する教科書の内容に沿うものとし、知的リテラシーの高度化/知的コミュニケーション力の強化という中心課題に向けて、少人数クラス別授業を展開する。1回目と15回目の授業については、全クラスが集合して一室に会する形の内容とし、学科内コミュニケーションの場としても活用する。

到達目標

- 観光学科の学生として最低限必要な【知的リテラシー】を身に付け、活用できるようになる。
- 観光学科の学生として最低限必要な【知的コミュニケーション力】を身に付け、活用できるようになる。
- 観光学科が対象とする研究の入口を体験し、高度化する大学での学修や探究に対応できるようになる。

提出課題

- ・ワークシート
- ・第11回～第14回の演習成果物
- ・その他、担当教員が指定する課題

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各クラスの担当教員から個別に示される。

評価の基準

- 以下の基準による総合評価とする。
- 第1回～第10回・第15回（合計11回分）に関するワークシート/課題への取り組みと提出状況： 55%
- 第11回～第14回の演習における課題成果物の内容完成度と演習習熟度： 45%
- *毎回の出席確認は厳格に実施する。
- *累積の欠席回数が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/E）
- *遅刻・早退（時間の長短を問わない）は、1回につき0.5回の欠席として算入する。
- *ワークシート/演習成果物が未提出の場合、それに対する評価点は0（ゼロ）となり、成績に影響を及ぼす。
- *ワークシートの提出は期限後の遅延を認めるが、ペナルティとして1回の遅延につき1/2の減点とする。
- *スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。

履修にあたっての注意・助言他

本科目で教授するアカデミック・スキルは【順序立った体系的な受講によるのみ大きな効果を発揮する】ものであることから、履修者の「継続的な授業出席」「課題への真面目な取り組み」を期待する。

教科書

・『知のナビゲーター：情報と知識の海・現代を航海するための』、中澤務・森貴史・本村康哲（編）、くろしお出版、1980、9784874243725

参考図書

・なし。					

その他

授業中に適宜資料（ワークシート等）を配布する。

授業計画

- 【学科集合講義：イントロダクション】専門基礎演習の説明、本学におけるゼミの仕組みについて
- 【クラス別演習：知的リテラシーをみがく】ノート・テイキング（聞く）
- 【クラス別演習：知的リテラシーをみがく】情報を集める（調べる）
- 【クラス別演習：知的リテラシーをみがく】リーディング（読む）
- 【クラス別演習：知的リテラシーをみがく】ライティング（書く）
- 【クラス別演習：知的リテラシーをみがく】ライティング（書く）
- 【クラス別演習：知的コミュニケーション力をみがく】プレゼンテーション（説得的に説明する）
- 【クラス別演習：知的コミュニケーション力をみがく】プレゼンテーション（説得的に説明する）
- 【クラス別演習：知的コミュニケーション力をみがく】ディスカッション（議論する）
- 【クラス別演習：知的コミュニケーション力をみがく】ディスカッション（議論する）
- 【クラス別演習：総合】各領域・専門に沿った調査・分析
- 【クラス別演習：総合】各領域・専門に沿った調査・分析
- 【クラス別演習：総合】各領域・専門に沿った調査・分析
- 【クラス別演習：総合】クラス内での演習成果の発表
- 【学科集合講義：次学期以降に向けて】科目の振り返りと総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 予習：教科書の指示された範囲を確認し、内容をまとめておく（各回2時間）
- 復習：授業内容から理解できたことを整理し、不安の残る部分について質問できるようにまとめる（各回2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1年次の「気づきの教育」を経て見出した、将来の「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能の定なる向上を図ることを目的とする。「考える学習型」授業や研究演習に積極的に参加し、課される課題に適切に取り組むことで求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、各学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。これらを通じて、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき5項目の資質・能力を身につける上での確かな基礎を築く。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・授業の双方向性について、教科書に付随するワークシートの活用やアクティブラーニングを通して確保する。
- ・各領域・専門に沿った調査・分析等の演習課題において、ICTを積極的に活用することを促していく。

実務経験の有無及び活用

備考

- ・科目の進捗状況等によって授業の内容や順番を変更する場合があります。その際には事前に告知する。